

## 集報

### 新刊紹介

倉野憲司著 日本神話（河出書房・日本文学大系7）一冊

本書は昭和十三年刊行されたものであるが、今回改訂版として再刊された。既に定評のある本書が再び取上げられるに至つたのも、著者の言の通り、最近になつて日本神話を恣意的・便乗的でなくあるがままに観察し認識しようとする萌しのほのかに見える初める「機運」の現れであろう。

今回再刊に際して、「日本神話と歴史性」の前半が書き改められ、「結語」が削られて「大国主神の国譲り」が加えられ、且つ昭和十八年六月「国語と国文学」に発表された著者の主義に基づいて、送り仮名が全面的に改められている。（B6一八八頁、定価二百四十円）

倉野憲司著 古典探求 一冊

著者の古典に関する最近の論考。「古典観の変遷」「万葉集愛の歌」「君が代」について」「記紀の歌謡に於ける二三の問題」「天地初発之時」の訓義」「高橋氏文

考」「古事記伝について」以上七篇から成る。

「古典観の変遷」「万葉集愛の歌」「古事記伝について」は講演乃至放送の原稿を基としたもの。「君が代について」は福岡市民を主な読者とする某雑誌に発表されて注目されたもの。記紀の歌謡と古事記に関する論は著者最近の研究の成果として福岡女子大学雑誌「文芸と思想」に発表されたものである。「高橋氏文考」は旧稿であるが高橋氏文研究の決定版として高い価値をもつものと思われる。

尙本書は京都積慶園開設七周年を祝つて同園に捧げられたものである。同園の園長古村正樹氏は著者が莫逆の友、浮浪児や引き揚げ孤児の救済と養護に生涯を捧げる人である。著者は感ずるところあつて本書の原稿を欣然同園に寄贈し、本書の出版によつて生ずる一切の利益を挙げてその経費の一部に充てるというが、ここにも著者が今日国文学界に隠然重きを成す所以の人柄がうかがわれる。本書の印刷万端は校正を含めて同園附属の印刷補導部の教習園児の手に成つたものであるというが、上出来であ

る。（B6二〇〇頁、京都市上京区御前通一条下ル積慶園発行、定価二百四十円）

目加田さくを著 日本小説史概論 上巻

筆者は昭和十六年三月九州大学法文学部卒の文学士、山口県女子専門学校助教授、福岡県女子専門学校教授を経て現在福岡女子大学助教授。

「此の国に現われた、又現われつゝあるほぼ小説と言ひ得よう作品群は、自分達のはらからの作であるだけに、縋いてゆくうちに妙に血縁のなつかしさと、時にはどうにもならない不満、反撥を感じさせるのですが、それは、廿世紀の私達の時代が、未だ十分満足の出来る小説を生み得ていない事に基づく焦燥のようにおもわれます。私は私の立場から丹念に日本小説を通観して、結論として、日本小説の性格、素質、将来への見透し、それがいかに進むべきかについての助言等々の問題を考究したいと念願しております。」

本書は右の「はしがき」の一節が示す通り、著者の日本小説史研究の野心を盛るもの、日本小説史の概念規定並びに時代区分については「序論」に詳しい。

尙本書は福岡女子大学学術研究費による出版である。(A5一四三頁、非売品)

## 學内消息

中島源次氏 六月、教授(英文学)に昇任。目下病氣療養中。

藤原英夫氏 七月助教授(教職課程)に新任。文学士。前島根県教育庁次長。

前田 博氏 十月、講師(教職課程)嘱託。九州大学教育学部教授。

小森潔美氏 十月、講師(書道)嘱託。

香椎高等学校教諭。

森岡 栄氏 十月、講師(英文学)嘱託九州大学助教授。

和泉 一氏 十一月、講師(英語)嘱託福岡商科大學講師。

## 受贈圖書雜誌

目加田さくを 日本小説史概論上(著者) H.L. Mencken: The American

Language. (森岡 栄)

福岡県教育委員会 教員免許法関係法令集

(福岡県教育委員会)

聖心女子大学編 The International

College of the Sacred Heart Tokyo,

Tapan.

(聖心女子大学)

佐久間鼎 神秘的体験の科学 (著者)

福島文人 経済原論第一分冊 (著者)

坂本正編 日活四十年史(日活株式会社)

倉野憲司 日本神話 (著者)

同 古典探求 (著者)

鹿児島大学総覧 昭和廿六年度

(鹿児島大学)

肥後藩絵図目録

(熊本女子大学郷土文化研究所)

語文 第五輯 (大阪大学国文学研究室)

東京外国語大学論集 I

(東京外国語大学)

山口大学文学会誌 第三卷 第一号

(山口大学)

社会福祉評論 No. 2

(大阪女子大学社会福祉研究会)

法隆寺 第二十七号 (法隆寺勸学院)

福井大学学芸学部紀要 第一号

(福井大学学芸学部)

熊本史学創刊号・第二号 (熊本史学会)

教育福岡 No.32-37 (福岡県教育庁)

神戸大学教育学部研究集録 第五集

(神戸大学教育学部)

福岡商大論叢 第二卷第二号

(福岡商科大學経済研究所)

史淵 第五十二輯・第五十三輯

(九州史学会)

高知大学研究報告 人文科学第二号

(高知大学)

西京大学学術報告 人文 第一号

(西京大学)

法文論叢 第三号 (熊本大学法文学会)

史料館所蔵史料目録第一集

(文部省大学学術局学術課)

熊本女子大学学術紀要 Vol.4, No.1

(熊本女子大学)

国学院雑誌特輯号・第五十三卷第三号

(国学院大学)

歴史 第四輯 研究年報人文科学 第一卷第一号

(東北史学会)

(三重県立大学)

日本文学論究 第十冊

(国学院大学国文学会)

名古屋大学文学部研究論集 I 哲学 I

(名古屋大学文学部)

人文科学紀要第一卷 (お茶水大学)

人文社会科学研究报告 第二号

(長崎大学学芸学部)

大倉山論集 第一輯

(大倉山文化科学研究所)

女子大文学 第四号

(大阪女子大学文学会)

文科報告 第一号 (鹿児島大学文理学部)

哲学年報第十二輯・十三輯

(九州大学哲学研究会)

東京女子大学論集 第三卷第一号

(東京女子大学学会)

学芸研究 人文科学Ⅰ

(和歌山大学学芸学部)

同教育科学

(同)

人文社会

(弘前大学人文社会学会)

紀要 第一輯

(青山学院女子短期大学)

奈良学芸大学紀要 第二号

(奈良学芸大学)

明治学院論叢

第二十六号

(明治学院大学文経学会)

埼玉大学紀要

第一集・第二集

(埼玉大学)

聖心女子大学論叢第一集(聖心女子大学)

日本文芸研究 第三卷第二・三号

(関西学院大学日本文学科)

同 第四卷第一号 (同)

京都女子大学 紀要5

(京都女子大学文理科学研究所)

The Journal of Kyoto Dyosi-Daigaku.

No.1

(同)

信州大学紀要 第二号第一輯(信州大学)

西南学院大学論集 第四卷第一号

(西南学院大学学術研究会)

石川国文学会誌 第一号

(石川国文学会)

実践女子大学紀要 第一集

(実践女子大学)

山口女子短期大学研究報告 第一号

(山口女子短期大学)

横浜国立大学人文紀要 第二類第一輯

(横浜国立大学)

紀要 No.1 (日本大学世田ヶ谷教養部)

高知大学学術研究報告

第一巻第一号(第十一号) (高知大学)

跡見学園国語科紀要 I

(跡見学園国語科研究会)

久留米大学論叢 第四巻第一号

(久留米大学商学部)

研究紀要 第七集

(三重大学学芸学部教育研究所)

研究論集 第一号(宇都宮大学学芸学部)

東京学芸大学研究報告 第三輯

(東京学芸大学)

—一九五二・一〇・三一現在—

編輯後記

祖国日本が独立してから初めての新年を迎へて感慨も一入深い。終戦後の三四年間に比べると、国民の物の観方、感じ方、考へ方は驚くほど變つて来た。今まで外にばかり向けられてゐた眼が、内に向けられるやうになつた。国民の心に幾らかのゆとりが生じて来た証拠である。人はこれを復古調と呼んでゐる。しかし一口に復古調と言ふが、よく見るとピンから切りまである。古来の美しい伝統を新しく生かさうとする健やかな復古調もあれば、所謂逆コース調もある。逆コース調が真つ平御免であることは言ふまでもない。われわれは日本古来のうるはしい伝統を新しい意味で生かすことに邁進すべきではなからうか。

さうした意味において、われわれの「女芸と思想」に課せられた責務の軽からざることを痛感する。終戦後、一種の流行で、雨後の筍のやうに発刊された諸大学の機関誌も、減すべきは滅び、残るべきは残つた。さうして残つたものは、号を重ねる毎にその質を目立つて向上させてゐる。ここに第六号を学界におくるわれわれの機関誌も、晶厲目に見て残つたものの一つに数へられるであらう。或いは質の向上は未だしいかも知れないが、われわれはあらゆる悪条件を克服しつゝその向上に努力を傾けてゐる。本号所載の諸篇は、何れもさうした努力の結晶である。識者の卒直な批判を賜はらば幸ひである。

次号は国語国文学特輯として七月に刊行の予定であり、次ぎの諸氏が執筆されることになつてゐる。御期待を乞ふ。(倉野)

次号執筆予定者

春日 政治 講師、学士院会員、文博

福田 良輔 講師、九大教授

杉浦正一郎 講師、九大助教授

龜井 孝 一橋大学教授・ケムブリッジ大学講師

藤原 与一 広島大学助教授、文博

北西鶴太郎 教授

笹月 清美 教授

井手 恒雄 助教授

目加田さくを 助教授

倉野 憲司 教授、文博